

先輩からのメッセージ

議題 新人職員のホンネ

政策統括官付参事官付雇用・賃金福祉統計室

青木 隆司

私の配属先では、統計調査の実施や結果の公表を行っております。結果の解釈には、数値を分析する数理的な能力に加えて、背景にある社会の実態を想像する力が必要です。複雑な社会の実態を正しく読み解くことは簡単ではありませんが、数値から社会の動きが見えたときの達成感は大きく、この仕事の魅力だと感じています。

また、先輩の数理職員は優しく頼りになる方が多く、この職場の魅力のひとつです。官庁訪問でも面白い経験談を聞くことができますので、ぜひ一度お越しいただければと思います。



Q. どんな業務を行っていますか？



A. 毎月勤労統計調査の公表作業を行っております。賃金や労働時間のデータを扱っているため、社会からの関心も高く、官公庁やマスコミ、一般の方など様々な方からお問合せをいただきます。公表結果は景気判断や経済分析などにも用いられており、担当している業務の重要性を実感する機会が多いです。

年金局数理課

菅谷 直樹

私が数理職を志したのは、今まで培ってきた数理的な素養を活かし、多くの方の生活に直結する施策に携わりたいと思ったからです。

令和元年財政検証が一昨年公表され、私は外部の方からの問い合わせ対応や詳細レポート公表に関する業務や、遺族年金受給者実態調査に関する業務を主にしてきました。多くの方に関わる仕事を一年目から行う機会があり、責任感とともに大きなやりがいを感じます。



Q. 入省して感じたことは？



A. 年金制度に携わる以上、制度の理解・把握は当然必要不可欠で、そういった「数理的ではない」側面に苦労することも多いですが、先輩の助けも頂きながら日々努力しております。一方で財政検証や基礎数作成の業務はプログラミングを基礎としており、スクリプトの作成・編集や結果の解釈には数理らしい知識・見方が必要になってきます。私は数理職の、制度に携わりながらそれをプログラムに落とし込むといった「二刀流」的な業務内容に魅力を感じています。(といってもどちらの面でもまだまだ見習いですが…)。

保険局調査課

高嶋 亮太

私の所属する係では各医療保険制度に関する各種データのとりまとめや健康保険に関する調査・分析等を行っています。数字の見方や考え方など、業務のいたるところで数理的な能力の必要性を感じています。また、課の窓口業務も担っているので仕事量は多く残業は多いですが、その分とてもやりがいのある仕事です。また、15分くらい歩けば美味しいお店が沢山あるのでお昼休みも楽しんでおり、最近はポルトガル料理屋によく行きます。



Q. 官庁訪問とはどんなものですか？



A. 官庁訪問は面接と言うより対話みたいな雰囲気に近いです。業務内容の幅が広く、毎回興味深い話を聞くことができます。それだけ数理職員に活躍の場があるということなので、官庁訪問で数理の魅力を思う存分感じてください。仕事のことだけでなくプライベートなことも聞けるのも官庁訪問の醍醐味です。



Q. 休日は何をしていますか？



A. 数学のテキストを作成しています。単元を越えて数学の魅力が伝わるものを作りたいとは思っていますが、中々難しいですね。最近は厚労統計を使って統計の基本を学べるテキストを作りたいなと思っています。是非入省して私の面白い話題を提供してください。



皆様と一緒に働くことを楽しみにしています！